

竹取新聞

発行所
株式会社 カグヤ



第161版

理念と実践で
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

カグヤクループログラムも
毎日元気に配信中！

カグヤウェブサイト



www.caguya.co.jp

「聴福庵」の情報はFacebookで
f 神家絵本家 聴福庵



生き方＝働き方。

安心できる人間関係を築ける環境づくりは、誰にとっても必要なことなのだと思います。子どもたちにも、養成校の生徒の皆さんにも、私たちにも。

安心基地と呼べる社会へ

果、そういった行動が生まれたいようにも見えます。このような状態ではそもそも「学び」に集中することも難しく、「アクティブラーニング」といった、生徒たち同士の主体性を尊重し、生徒たち同士が協力・共同して学びあえる授業を行うことは困難です。

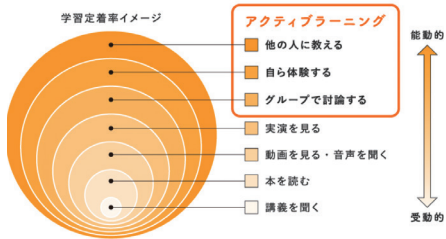
学校に行けば友人がいる、自分らしく過ごせると感じられるような「安心基地」としての場づくりが今まさに生徒たちに必要になってきているのだと強い危機感を感じました。また、専門学校は高校と違い「学校生活」を楽しむ場所ではなく「就職に必要な技能や資格」を取得する場所という認識を持つ生徒たちが増えているということを知ると、「社会」と「今までの高校生活」との間に挟まれるプレッシャーが生徒たちに少なからず存在することに気づきます。生徒たちの夢を実現できる学校にするには「専門知識や技能」が習得できる質の高い授業はもろろん重要ですが、それ以上に「夢を共に目指し、高めあい、学びあう仲間」ができる環境が重要です。生徒同士がお互いの夢を知りあえる。それぞれの価値観の

先日、保育士養成校の困りごとをお聞きする機会がありました。その困りごとは生徒の退学率がコロナ禍で上がってきているということでした。密になることを避けてきたこの数年を振り返ると、学びを止めないために授業を受けられる体制づくりには尽力してきましたが、生徒同士の交流の場や出会いの場づくりが難しく、生徒間の十分な信頼関係が育まれづらくなったそうです。会話は減り、教室内では個々がスマートフォンを見つめるばかりの状況が目立つよ

うになりました。その結果、学校生活を安心して過ごせる人間関係が構築できず孤独を感じやすい環境が生まれ、学びの意欲そのものが低下するという負の螺旋が生まれましました。また、関係性の少なさから「友人」や「クラスメート」というよりも「他人」という感覚の方が近くなり、悪口や陰口が増えていったそうです。人は、「他人」と近い距離にいるとき、緊張から自分を守るうとします。生徒たちの不安や緊張が育まれてしまった結

果、そういった行動が生まれたいようにも見えます。このような状態ではそもそも「学び」に集中することも難しく、「アクティブラーニング」といった、生徒たち同士の主体性を尊重し、生徒たち同士が協力・共同して学びあえる授業を行うことは困難です。

違いを知り、認めあえる。お互いの声を傾聴しあえる。そんな場づくりとして授業そのものに生徒同士が「傾聴・共感・受容・感謝」を体験できる振り返りの教科が必要なのではないのでしょうか。



良好な信頼関係や安心してお互いを信頼できる環境が学びの質そのものを支えています。

アクティビティ紹介

カグヤでは、月に一度の全体会議のはじめにアクティビティ（アイスブレイク）の時間を設けています。アクティビティには、場の雰囲気や和らげ、一体感を生む効果があり、10年以上続けています。アクティビティの担当者は、ユーチューブにアップロードされている動画や、本に紹介されている内容を参考にしています。紹介されているルールに、より協力が生まれやすくなるようアレンジを加え実施し、ゲーム後は参加者から感想や意見をもらい、さらに改善を行いゲームの進め方の資料化を行っています。

園の先生方にも、園内研修や保護者会などでお使いいただけるよう資料をお渡しして

2022/09/09 **アクティビティ**

「アクティビティ」参考例

アクティビティのネタがなくて困った!!!
そんな時は、下記のアクティビティをお使いください!

結構びびったよ

【ゲームの目的】

1. 2人1組になって対決する。
2. 「真実、嘘、悪し、悪く」の中から表裏する感情（感情）をのぞく。
3. 両手で目を隠し、「びびん」と言いながら感情をのぞき、手を開く。
4. 感情がさらさら「びびん」。
5. 両手開きの感情がさらさらでやります。

ブログページに詳しく載っています。

株式会社カグヤHPのトップページからも、「アクティビティ」参考例ページをご覧ください。

いきましたが、多数の園から「他にもアクティビティのネタありませんか?」とお声をいただくことがありました。また「園の担当者が退職して、資料を紛失してしまった」というお声もあり、資料を手渡すことも含め、別の方法を模索してきました。そこで、これまで実施してきた中から厳選した内容をカグヤのホームページで閲覧いただけるよう、ブログページを設けました。こちらではゲームの進め方などを、いつでもどなたでもご覧いただけます。

子どもたちが遊びを選択できるように、コーナーやゾーンを用意されている先生方を真似て環境づくりを行ったのが、前述のブログページの創設です。

ゲーム内容や人数、時間、道具の有無など「選択」して頂きやすいよう分類しています。

アクティビティは純粋に楽しく、笑顔がこぼれます。私たち大人にとっても、今の時代に必要な場づくりではないかと改めて感じるからこそ楽しみながら研究を重ねていきたいと思っています。(奥山卓夫)

カグヤでは、それぞれが別々の場所においても、お互いの気持ちや様子をクルー同士はもちろん、皆様とも共有できるよう、毎日、ホームページでブログ配信しています。ここではその一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

誕生日



今年も仲間からお祝いを！周りの支えに気付き、感謝を伝えられる誕生日は年に1度のありがたい日ですね。

カグヤではクルーの誕生日に仲間からのお祝いメッセージや1年間の思い出写真が詰まったアルバムを贈っています。また「誕生日は両親に感謝する日」でもあるため、本人から親への感謝メッセージを添えたアルバムも別で贈っています。私自身も先月誕生日を迎え今年も親へ贈ると、早速父から連絡が。そこにはカグヤの皆への感謝と共に、私が健やかに成長しているよ

うで安心したこと、健全な人間関係を保ち信頼されているようで安心したこと、更に「今後も信念を貫いて健康第一で楽しく無理なく過ごして下さい。親としては子どもの幸せが一番嬉しい。」とも綴られていました。そう考えると、いつの時代も親は子が生まれた時から大人になってもずっと、子の想像を超える程に何かしら気にかけて、幸せを願っているのではと感じます。そうした見守りの中で今に至り、代々繋がった延長線上に自分が存在していることを思うと、決してひとりではないという、安心感からくる自信も湧いてきます。このような安心感や幸福感も、先人が節目を過ぎす際に「祝いと感謝」をセットで繰り返してきたおかげなのかもしれません。改めて、貴重な節目の機会には子どもたちの周りにも「祝いと感謝」の場を繋いでいけたらと思います。
(宮前奈々子)

日本の智と慧

去年今年（ござことし）

今年もあとわずかとなりました。一年の中で最も「時の流れのはやさ」を実感する時期です。田舎の年の瀬は忙しく、大晦日「紅白歌合戦」が始まる頃にやっと一息つけます。やがて「ゴーン」と除夜の鐘が響いてテレビ画面は静かな山里の寺に切り替わります。ここから十五分程で一気に今年が終わっていき「新年」を迎えます。いつものように「昨日が終わり今日になる」だけのことではありませんが、年変わりの「時の狭間」は特別で、人生のバトンゾーンのうちでもあります。ここでは、時代に



大掃除を終えて門松を飾ると新年の足音が聴こえてきます。今年はどうな「ゆく年くる年」となるでしょうか。

抗いながら「信念にこだわっている」と自分と「変わらなげや」という自分との対話がなされます。結局は「去年今年（ござことし）貫く棒の如きもの」という虚子の句を味方につけて、不器用なままでもやはり「自分の志を生きる」というところに落ち着くのですが、実はこっそり「起死回生」を狙っている「もう一人の自分」もいたりします。あなたの「去年今年」はいかががでしょうか。良いお年をお迎えください。(藤堂昌恒)

一期一会庵

むかしの田んぼを守ることに

先日、無事に今年の新嘗祭を「むかしの田んぼ」で行うことができた。朝から竈で新米を炊きみそ汁をみんなで作りましたが、まるで親戚が集まったかのようなあたたかで豊かな懐かしい時を過ごしました。この懐かしい感覚は、自分の幼い頃の思い出なのか、あるいは先祖からずっと繋がって体験してきたことか、思い出ななはわかりません。しかし、なぜか全員がその懐かしい感覚を持つていて新嘗祭を通して場に甦生します。ひよっとしたら、先祖は同じように苦楽を共にしお米を中心に生きていくなかで何度も何度も繰り返してこの幸福や仕合せ、そして一緒に生きていくことの素晴らしさを体験しあったのかもしれない。家族の原風景や原体験を田んぼと一緒に遺していきたいと強く感じる一日になりました。そしてまた大きな元氣をいただくことができました。

切に取り組んでいます。これは、本来の田んぼでのお米作りを子どもたちに伝えてその喜びを遺していきたいと続けているものです。生きものがいっぱいいて、田んぼが喜んでくれるようなお米の作り方のなかに私たちカグヤの子ども第一義の理念が体現されています。私たちの代だけがよくなればいいと考えるのではなく、どうやってこのバトンをさらに美しいものにして次の世代に伝えていくか、それを真剣に考えて実践することも子ども第一義です。よく考えてみたら、先人たちが同じように真心中で私たちに遺してくださったから今の私たちは存在しています。それを思い捨てするような生き方ではなく、如何にもっと善いものに磨いて高めて譲渡していくか。まさに今は、その真剣勝負の真ただただ中です。

このむかしのお米の活動は、売上や利益などは度外視で徳を積むためにみんなで取り組んでいるものです。その御蔭もあってか、本当に美味しいお米で食べるととても仕合せになります。いつまでもこの豊かさや仕合せが子どもたちに繋がっていくよう、祈り願うばかりです。こうして当たり前ではない日々感謝して、これからもみんなで力を合わせて子どもたちのために働いていきたいと思っています。
(野見山広明)

編集後記



実るほど頭を垂れる稲穂かな

お米には日本人にとっての「美味しい」がギュッと詰まっています。ように思います。新米だとその喜びはひとしおです。

私たちはこれからも、むかしの田んぼの生き方や働き方を守るためにこのお米を食べ続けていきたいと思います。子どもたちと一緒に

に食べることで賛同したいという方がいらつしやいましたらお裾分けさせていただきます。遠慮なくお問い合わせください。

最後に、本年もたくさんのお見守りありがとうございました。来年も実り多き一年となりますよう、お祈りいたします。(真田由莉)

カグヤは「子ども第一義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます



ライトハウス(灯台)
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17
東京堂神保町第3ビルディング8階
tel.050-1744-8823
fax.03-3518-6218

カグヤウェブセンター
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17
東京堂神保町第3ビルディング8階
tel.03-3518-6217
fax.03-3518-6218

働き方と暮らし方の一致
暮らしフルネスについて

